

戦後日本人の戦争忌避精神は集団的無意識

～以下、「戦後七十年 憲法九条を本当に実行する（柄谷行人）」～

2015年8月15日 朝日新聞（全面広告）

（文中の太字は引用者による／・・・・・・は省略部分）

七〇年目の八月一五日に

戦後七〇年といわれますが、戦後という言葉が第2次大戦後という意味で使っているのは、たぶん日本だけでしょう。それは、日本には戦後に新憲法があって、戦争をしないことになっているからです。憲法九条が普遍的な意味を持っていることは確か。それは、さかのぼればカントの「永遠平和のために」の精神を受け継ぎ、一九二八年の不戦条約の精神を受け継いでいる。そして、実際に日本人に支持されています。

・・・・・・憲法九条は、当時日本人が戦争を反省して自発的に作ったものではなく、占領軍が強制したものです。・・・・・・しかし、**強制されたことと自発的であることは、矛盾しない**のです。たとえば、憲法ができて数年後、朝鮮戦争の際にアメリカがこの憲法を変えようとしたとき、日本人は（保守の吉田政権ですが）それに抵抗しました。**その時に、日本は憲法九条を自発的に選んだ**といえます。

ただ、この時期の問題は、憲法九条の解釈を変えて自衛隊を承認したことです。ある意味で、解釈改憲はこのときから始まったといえます。しかし、憲法九条自体を変えようとはしませんでした。保守派はそれを変える機会が来るのをずっと待っていたのですが、できなかつた。今もできません。それは、**戦後の日本人には、戦争を忌避する精神が深く根付いた**からです。**それは「無意識」のものです。集団的無意識**（注）です。これは意識的なものではないから、**論理的な説得によっても、宣伝・煽動によっても変えることができない**。そして、これは社会状況が変わっても世代が変わっても残る。

（注）集団的無意識（普遍的無意識）については、<http://c1.cocolog-nifty.com/blog/files/02.pdf><クリックして下さい>ご参照。

アメリカは日本と同じではありませんが、ベトナム戦争でよく似た経験をしています。ベトナム戦争以降、彼らは二度と徴兵制を採れない。それは無意識の戦争忌避があるからです。日本の憲法九条のように明文化はされていませんが、もし現職の大統領や大統領候補が徴兵制を唱えたらどうなるか。たちまち終わりです。アメリカ政府は、ベトナム戦争以降ずっとその状態が元に戻るのを待っていたはず。9・11の際は、これでアメリカ人も憤激して立ち上がるだろう、進んで戦争にもいくだらうと考えたでしょう。しかし、確かにそういう兆しも見えたが、すぐに消えた。アメリカ人も、もう自由のために、などと言って戦争に行き死んだりはしないのです。今後の戦争は、傭兵のような戦争のプロ、ドローンのようなロボットが行うようになるでしょう。もはや国民は戦争には参加できないのです。これが現在の戦争の現実です。

憲法九条がある日本だけでなく、一定の独立を達成した国では、戦争で進んで死ぬということは無理だと思います・・・・・・。

現在の政権が本気で戦争をする気があるなら、たんに憲法の解釈を変えるのではなく、九条そのものを変えるべきです。むろん、それはできない。変えようとする政権や政党のほうが壊滅します。それは、**戦争を拒否する無意識の「超自我」が存在する**からです。憲法九条はいわば「虎の尾」です。今の政権は、これを踏んでしまったのではないですか。

「デモで社会は変わる」

戦後の精神とは、すなわち、戦後憲法ですね。たとえば、集会・デモの自由は戦後憲法によって保障されたものですから、私は一九六〇年の安保闘争に参加していたものですが、その当時、デモは普通の行為でした。ですが、一九七〇年以降に普通の人々がデモに行くことができなくなってしまいました。デモに対する懐疑も強くなりました。「デモで社会が変わるのか」と。私はその考えを変えたいと思っていたのですが、震災と原発事故の後にそうした状況が出てきました。たしかに**「デモで社会は変わる」**。なぜならば**「人が普通にデモをする社会」**に変わるのですから。今、国会周辺では毎日のように集会があります。いついっても誰かがいます。それは全国でも同様でしょう。原発事故以来、こうい

う下地ができていたのです。その上で、今の政権は解釈改憲を強行した。大きなデモが起こるのは当然です。今日の状況が一挙にできたわけではありません。。。。。

世界共和国へ

別に新しい理想は要りません。憲法九条を本当に実行すること、それが理想です。いうまでもないですが、現状は九条に反しています。米軍基地が各地にあり、自衛隊には莫大な国家予算がついている。憲法九条の文言を素直に読めば、こんなことがありうるわけがないのです。

この九条を文字通り実行すること、それはたんに日本人の理想ではありません。それは、カントが人類史の到達点とした「世界共和国」にいたる第一歩です。もちろん、これは日本一国ではできません。九条も、憲法前文に書かれているように、戦後に成立した国連を前提としているのであって、一国主義ではありません。

現在、国連は機能しなくなっています。戦争を阻止する力を持たない。国連を変えるためには、それぞれの国での対抗運動が必要です。たとえば、**日本が今後憲法九条を実行するということを、国連で宣言するだけで、状況は決定的に変わります。**

<この文書は、「**非武装・非戦の論理**」(下記URLをクリック)に掲載されているものです。>
<http://fileshelf.cocolog-nifty.com/blog/2020/12/post-8583.html>